平成２４年度東京都・荒川区 学力調査に関する結果分析シート

学校名　赤土小学校

学力調査名	調査前に記入		実施結果	
区学力調査 全学年	成果指標(具体的な数値指標)		区 達成率	自校達成率
	【基礎】 ６月実施	これまでの結果を受け、下位の学力をひきあげてまず、当面は区の平均を超えることを目指す。	国語　算数 2年　86.2　91.0 3年　76.2　80.4 4年　73.3　75.6 5年　81.4　68.8 6年　69.4　67.0	国語　算数 2年　74.2　82.8 3年　72.6　75.0 4年　71.4　66.7 5年　79.5　58.0 6年　69.5　61.0
	【活用】 １２月実施	到達度で、区の平均を上回ることを目指す。	国語　算数 1年　70.1　69.4 2年　73.1　79.2 3年　67.1　52.9 4年　57.1　73.9 5年　62.0　49.6 6年　51.7　63.4	国語　算数 1年　64.7　63.6 2年　66.8　75.2 3年　67.3　46.1 4年　47.5　66.7 5年　61.0　43.0 6年　50.5　60.7
都学力調査 中学校２年 小学校５年	成果指標(具体的な数値指標)		都 正答率	自校正答率
	A ７月実施	学年の実態から区の平均を目指す。どの教科も基本的な学習事項がどの程度定着しているかをしっかり見て、後半と６学年からの課題を明確にしたい。	国語　72.1 社会　63.8 算数　63.7 理科　62.5	国語　69.2 社会　62.0 算数　59.4 理科　57.6
	B ７月実施	習得の問題と同様、区の平均値を目指す。読書活動に力を入れてきた経緯があり、国語については平均を超えたいと考えている。	国語　51.4 社会　45.1 算数　32.4 理科　59.2	国語　42.2 社会　39.6 算数　31.6 理科　53.7

平成24年度結果分析および具体的な方策

結果の分析

〈区学力調査〉

〇基礎においては、区の平均と比べて６年の国語が若干上回っただけで、他の学年は２ポイントから９ポイント下回っている。また、国語と算数を比べると算数がどの学年も５ポイントから９ポイント低く、算数の基礎学力向上への改善が大きな課題である。

〇活用においては、国語では２，３，５年で達成率が目標値を上回っている。また、算数では２，４，６年で上回っている。しかし、到達度で見ると区の平均を超えているのは３年の国語だけであった。学年全体で見ても国語で3.9ポイント、算数で5.5ポイント下回っている。

〈都学力調査〉

〇４教科ともに都の平均を１～５ポイント下回っている。区の平均が都の平均に迫っているにも関わらず、本校においては、区の平均にも及ばなかった。課題のある学年の実態から平均を目指して学年経営にあたり学習の質の向上を図っているが、まだ効果は見られていない。算数の基本など、取り組まなければならない課題は多い。

〇学級による差があるが、活用については教科によって都の平均を大きく下回っている。特に国語の読み解く力は９ポイントも下回っている。読書活動や学校図書館の活用に力を入れていることとの相関関係が疑われる。読書活動と国語の授業のあり方を見直し、課題解決的な学習の充実を目指す必要があると考える。

具体的な方策

〇補充学習の時間確保と家庭学習の習慣化
・諸会議を工夫し、放課後の補習時間を確保する。
・家庭学習の習慣化を図るために、課題を計画的に与える。
・「家庭学習がんばろう週間」の充実を図る。

〇校内研究の充実
・学ぶ意欲の向上を図る楽しい授業づくりを図る。

〇算数習熟度別学習及び「算数大好き」によるＴＴ指導
・プレテストによる適切なグループ編成を行い、段階に応じた指導を徹底する。
（低学年のうちから低位の引き上げを行う。）
・無回答０を目指す。

〇電子黒板やスマートボードの活用（コンテンツ、ソフトの活用）
・研修により情報交換を行う。
・授業を盛り上げるコンテンツの紹介

〇放課後に補充学習を行う時間を設け、教材を活用し漢字力、計算力、読解力等を養う時間を週2回はもうける。

〇体験や具体的な活動等を重視した学習の充実を図り、電子黒板、スマートボード等を活用し、そのソフトを開発してデータベース化を推進する。

〇教育活動全体において言語活動を重視し、言葉を通して的確に理解し、論理的に考え、表現する能力を育てるとともに、学校図書館を活用した授業と読書活動を推進する。